

ハイイロゲンゴロウ

Eretes sticticus



種名

分類

甲虫目ゲンゴロウ科

形態的な
特徴

体長 9.8～16.5mm ほどの中型のゲンゴロウ。体の地色は淡黄褐色であるが、背面には密に黒色の斑点が散らばるため全体的には灰色に見える。上翅の側縁後方には短いトゲが密生し、上翅先端もややとがる。メスは上翅の側縁中央に向かってくぼみがある。オスの前脚のふ節の一部は幅広になり、吸盤の役目を果たす。

分布

本州、四国、九州、南西諸島に分布する。

繁殖行動

産卵は5～6月頃で、水中の水生植物の茎などに卵を産みつける。成長した幼虫は上陸して、地中でさなぎになり、羽化後、成虫になると再び水中で小動物などを食べて生活する。幼虫も成虫も呼吸をするときには水面上がり、空気中から酸素を取り込む。成虫で越冬し、成虫は一年中見られる。夏には灯火にも飛んでくる。

生息場所

本種は他のゲンゴロウ類にくらべ水生植物のない環境を好み、平地の池沼や貯水池、プールなどでよく見られる。水田や川、溝水などにも生息し、各地の様々な水域で生息が確認されている。田植え前の水田や輪だちの水溜りなど、水生植物の少ない浅い水域を好む傾向があるため、各地の至る所に生息しているが、個体数はさほど多くはない。

食性

ふ化した幼虫は、鋭いあごでオタマジャクシや小魚など噛みつくと、大あごを通して消化液を注入し、液化した餌を口の毛でろ過して食べる。

生息環境への
配慮事項

本種は生息範囲も広く、環境への適応性も高いと思われるが、安定した水環境でなければ餌の供給や繁殖にいたることはできない。そのため、プールやコンクリートで固められた貯水池などは成虫の一時的な生活の場でしかなく、持続的な生活の場としては水域と連続した土護岸の水環境などが必要になる。

その他

引用文献：http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.html を改変